

	一般的名称	報告の概要
580	クエン酸タモキシフェン	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾール群とタモキシフェン群の無作為化二重盲検試験(BIG1-98試験)においてグレード3～5の副作用を比較したところ、レトロゾール群で心疾患の発生率が高く、タモキシフェン群で血栓塞栓症が多かった。
581	エポエチン α (遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
582	ダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
583	エタネルセプト (遺伝子組換え)	2つの自発報告データベースを用いた検討において、インフリキシマブ、アダリムマブと比較してエタネルセプト投与群で有意にブドウ膜炎の発現が多かった。
584	ジクロフェナクナトリウム	非ステロイド系鎮痛剤(NSAIDs)の使用により胃腸粘膜障害が起こり、再発を繰り返す例ではHelicobacter Pylori感染に関与していることが示唆された。
585	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク投与患者において、短期・中期・長期投与群の上部消化管障害率は24%、41%、77%であり、長期投与患者では8割の患者で上部消化管障害が発症した。
586	ヘパリンナトリウム	一医療機関においてヘパリンを投与されたHIV感染患者53例と非感染患者106例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、HIV感染患者ではHITの発生率が高いことが示唆された。
587	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	20件、3458例を対象とした系統的レビューにおいて危篤患者集団へのアンチトロンビン3の投与は死亡率を減少させなかった。また、出血のリスクを増加させた。
588	臭化ベクロニウム	術中腹腔内灌流温熱化学療法(HIIC)中のベクロニウム投与で、作用時間の短縮が見られた。
589	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
590	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化PhaseⅢ試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mFLで5.1%、CapeIRIで3.5%、FOLFIRI/ベバシズマブで1.8%、mFL/ベバシズマブで6.8%であった。
591	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為交差試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
592	エストラジオール	ホルモン補充療法使用者は、非使用者と比較してドライアイの発症が高まることが示唆された。
593	クエン酸シルденаフィル	ダルナビル/リトナビルと本剤を併用した場合、本剤のCmax、AUCが高まることが示唆された。
594	ダナゾール	赤血球生成促進薬あるいはダナゾールは、赤芽球又は血小板レベルと関係なく、遅発性の白血病と関連することが示唆された。